

平成 23 年 10 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 23 年 10 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：45.0% DI 値：▲42.5% ポイント

売上高（＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、増加：21.3% 減少：33.8% DI 値：▲12.5% ポイント








収益状況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：8.8% 悪化：35.0% DI 値：▲26.2% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 23 年 10 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲33.3	▲50.0	▲33.3	▲50.0	▲66.7	▲60.0	▲50.0	▲51.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲0.0	▲66.7	▲100.0	▲15.4	▲33.3	▲28.6	▲36.1	▲42.5
							

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	<p>国体の開催により、メイン会場よりも各市町村では土産の需要があったので、前年同月より一部の組合員は好転した。アレルギー表示漏れが2件続いてあり、現在、組合として表示の周知徹底を行っている。</p>	パン・菓子製造業
	<p>9月度は▲4.2%と前年割れ。2回の台風影響による来館者減と商材不足が原因。10月は24日時点の前年同月比が+3%程度でやや復調。9日開催の「第15回萩魚祭り」は好天に恵まれ+7%の集客増で3.6万人の人出。当館をボトルネックに市内の渋滞が最大2kmに達した。8月29日付、6次産業化プランナー任命に引き続き、駅長が10月20日付で、農水省より「地産地消の仕事人」に認定された。</p>	水産食料品製造業 萩市
	<p>年末のギフトシーズンが始まったが、動きはまだ見られない。早期受注などがどれくらい進むかが前半の鍵となる。水産業界自体、原発の影響などで需要と供給が不安定になっており、今年はどうような変化が起こるか予測が難しい。</p>	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	<p>国体の関係で、10月は少し忙しい組合員もあった。</p>	帆布製品製造業
	<p>先月同様、大きな変化は見られません。11月までは備蓄生産で横ばいです。今後の状況は、シーズン物の販売状況により左右されますが、販売は低調のようです。ただ円高で、製造は海外依存が拡大しており、国内の製造が縮小し、一旦海外にシフトすれば、国内に戻ることは難しくなります。今後、国内の減産を強いられることを各社危惧しています。</p>	下着類製造業
	<p>ジーンズの消費が全国的に回復していない。</p>	外衣・シャツ製造業 山口市
	<p>10月は受注が少なく苦戦し、11月からの上向きを期待したが、まだまだ受注量が少ない状態が続く模様である。円高で海外へ仕事が流れている事と景気の先行き不安で消費者の買い控えが続き、消費も伸びていない。不安材料がいっぱいである。</p>	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	<p>全国的には昔からある「軸組工法」による住宅着工率は上がっているが、これは大手が関わって見られることであり、地元工務店との関係の深い製材所は依然苦戦している。</p>	製材業・木製品製造業 下関市
	<p>今月も小学校の材料受注があるので、昨年よりは良いが、全般的な景況は悪い。組合員、個々の業況に</p>	製材業・木製品製造業 岩国市

	ついては不明。	
印刷	<p>山口国体の開催で、多少需要があったが収益が好転する程の効果はあまり無かった。当組合が推進しているメディアユニバーサルデザイン(MUD)の全国コンペにおいて、10月20日の審査発表で、経済産業大臣賞(最優秀賞)と優秀賞を受賞した。当組合では第1回から第5回まで連続して入賞者を輩出している。</p> <p>激化する価格競争に加え、紙の値上がりも手伝い、更には印刷物発注の激減で、印刷業界は一律に経営不振に喘いでいる。なんとか歯止めをかける方法はないものか。このままでは生き残りに破れた印刷会社から順に淘汰され、業界自体が目減りし、失業者が増えるであろう。</p>	印刷
窯業・土石製品	<p>上半期計は、当初の見込みは上回るものの前年比95パーセント。公共の伸びが期待できない中、民需への依存度が高まる傾向にある。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていないが、今後の値上がり等は懸念材料。</p>	生コンクリート製造業
	<p>出荷量については、対前年比で骨材：90% 路盤材：92% 再生材：68% 全体では、対前年同月比：89%。10月に入って取引先が支払未納のまま倒産、県資材単価の減額で砕石業は苦しい状況が続く模様。さらに、10月は国体工事も終わり暇な時期でもある。</p>	砕石製造業
	<p>山口国体、山口大会で、萩焼の買い物には大きな変化は無かった様に思われる。</p>	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	<p>依然として、中国の金融引き締めや欧州の情勢不安等による先行き不安定感が顕著であり、受注環境にも影響がある。また、タイ王国の水害影響が長引くとの懸念で、年内の先行きは不透明感が増している。</p>	一般機械器具製造業 柳井市
	<p>絶対的な受注量が少なく、仕事の争奪戦が激しいので、仕入価格の上昇を販売価格に転嫁し難く、利益確保が厳しい状況が続いている。東日本大震災の直接的な影響はあまりないが、逆に復興特需もなく、現状は前年度並の水準で推移している。</p>	一般機械器具製造業 周南市
	<p>円高の影響をまともに受けて相変わらず厳しい経営状況が続いている。自力で回復する為には、人材の厚さがポイントであるが、新規採用の意欲も無い。一方、永年、こうした時代を見据えた経営計画を持っている組合員は、新鋭の機械設備を導入することにより乗り切ろうとしている。</p>	一般機械器具製造業 防府市

	<p>円高及び欧州の債務危機により世界経済の停滞が懸念される。現に、親会社の今後の見通しによれば、来月以降、受注額の減少が見込まれる状況にある。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>売上高は堅調に推移しているが、収益には寄与していない。</p>	
	<p>震災の影響で現在の状況は厳しいが、復興需要が見込める見通しである。</p>	一般機械器具製造業 下関市
	<p>10月の受注は低迷している。金型の受注価格については、今まで以上に低価格化が進んできている。現在受注しているものは海外向け（中国）が多い。日系企業への型の納入、設備稼働率も低下してきている。設備機については老朽化が進み、修繕費が大幅に掛る状況になっている。業界の景況としては、円高の影響により国内から海外シフトがさらに強まっている様子。</p>	特殊産業用機械製造業
輸送機器	<p>特に前年度と変わりはない。</p>	船舶製造・修理業
	<p>輸送機部門では新たな受注案件が見当たらない。現在の状況は、作業量の減少傾向が強まってきた。これから長期間に亘り（一年以上）冬の時代が続く見通しで、厳しい局面に入ってきた。精密加工は今期、明るさを維持できる見込み。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>全般的に仕事量（需要量・販売量）が減少し、収益や資金繰りも低調な推移で、個人消費の持ち直しを期待している。現況は、一昨年程度で推移している。</p>	各種商品卸売業 周南市
	<p>今年も二ヶ月足らずとなったが、組合員無事一年を終える様子である。団地内の防犯灯の電球の取り換えは中国電力が負担して行っていたが、4月より組合負担となり施設管理費が少し上がった。</p>	各種商品卸売業 防府市
	<p>各業種とも売上・利益ともに減少している。特に建築材料卸関係並びに民間工事と公共工事は減少している。円高下においても海外との取引は無い。震災の影響も無い。“もってけ”の(株)ビジネスアシストが11月に団地内に着工し、新規に組合員となる。</p>	各種商品卸売業 下関市
小売業	<p>業界の10月は、例年あまり変化のない月。11月・12月は、メーカーと組合の共催の健康食品の売上コンテストを開催する。</p>	化粧品小売業
	<p>先月までの金相場高騰も、おおよそ安定価格に落ち着き、買取も通常通りに推移しているように感じる。家電製品他の買取が減少してきており、増加するような対策を打ち出したいものである。</p>	中古品小売業
	<p>国体、おいでませ大会盛況に終了、宿泊関係等一部の業種でフル稼働となる。</p>	各種商品小売業 周南市

	前年はエコポイントが実施されており、前年比よりの減少はやむを得ない。	各種商品小売業 山口市
	売上の確保に大変苦戦をしている。	各種商品小売業 下関市
	本年12月に開業予定の大型テナント入店のため、10月は既存店舗の店じまいセールが実施されており、売上、客数共に前年は上回っているが、11月は大型テナント入店工事が約1ヶ月予定されており、売上は、かなり前年を割込むと思われる。	各種商品小売業 長門市
商店街	10/7～10の「秋の萩焼祭り」は昨年度比と同程度の成果、10/21～24「ハロウィン収穫祭」は若い家族連れで好評であったが、毎回の事であるが、開催中の個店の売上向上、終了後の集客が課題である。新規大型店の集客についてはやや落ち着いたものの、若い家族層の利用が多く、既存1大型店が苦戦をしている模様。商店街としては観光に力を注ぐのが活性化の活路となるようにも思う。11月中旬に商店街内の空き店舗に美容院が開業する予定。	萩市
	販売チャンネルの多様化・少子高齢化もあり、さらに機能重視・コスト重視の時代でもある。その流れで雑貨店が閉店。従来より、「空き店舗対策」や「中心市街地対策」は、物を売る店を出店するだけを検討すると不毛に帰すと主張していたが、いよいよ本格的に“商空間は何の為に存在するか”という原点から再構築を考える段階に来ている。	山口市
サービス業	円高の影響は無い業界であるが、デフレの社会で困っている。大手の値下げにより、七五三の着付や振り袖の着付等の価格が下り、従来店舗への来客数が激減しており対応に苦慮している。	美容業
	右肩下がりのデフレの状態を止めないことには、景気の回復は見込めない。売上が下り、組合員の生活が心配な状況。	理容業
	自動車関係諸税の抜本的な見直しが平成24年3月までに行われることになっている。現在、自動車取得税、重量税等のエコカー減税が行われており、販売も一昨年レベルに回復しているが、来年4月以降の税制改正の内容によっては今後の売上げに大きな影響が出ることになる。	自動車整備業
	先月と状況変わらず。システム開発案件が非常に少ない状況です。各々の企業で、この環境の変化に対して、どのように対応していくかは、各々の企業がアイデアをだしていくしかない。	情報サービス業

<p>依然として厳しい状況で先行きが見えないが営業努力により需要を掘り起こして行かねばならない。IT業界としては円高やTPP等による直接の打撃は少ないが間接的には景気の停滞ムードが顧客の投資意欲を減退させている事は否めない。</p>	
<p>国体開催で、わずかながら売上に増加はあるが組合事業所全てに該当するわけではない。</p>	屋外広告業
<p>1. 国体効果があったように感じるが飲食業界には恩恵が少なかったようだ。業界の中にも個店での温度差があった。</p> <p>2. 円高弊害はますます高まってはいるが、はっきりとした影響はまだ見られない。ユーロの経済破綻で世界恐慌がささやかれているが、相変わらず先行き不安は払拭できてない。</p> <p>3. 遅ればせながら東日本大震災復興支援も税の投入が始まったが誰のための復興かはっきりしてこない。放射線量という規制基準のはっきりしない問題に振り回されすぎている。</p> <p>4. 国体後がみえないまま終わったように思えるが、TPP問題がやっと論議されるようになって景況にどう影響するのかの関心が始まったようだ。アメリカとの2国間なのかTPP（環太平洋）なのか、グローバルな自由化なのか国の姿勢が見えない不安が飲食業界にもある。</p> <p>5. 対前年比に変化なし。</p>	飲食業
<p>山口国体関係で宿泊者の増加が有り売上高が増加した。</p>	旅館業 周南市
<p>国体の為、売上高、宿泊者数共に増加。</p>	旅館業 山口市
<p>10月は国体及大会関係で宿泊者数は増加。その他の通常の観光客は、部屋が国体等で予約が取り難かった。周辺の飲食店が、大変にぎわった。前年に比べると、大会の関係で売上はかなり増加した。連動し、雇用も増加。その他は、前年同様の状況が見られた。日帰りの観光客はかなり増えていた。特に海響館の駐車場は、バスが沢山停まっていた。</p>	旅館業 下関市
<p>宿泊者数は、昨年9月に過去5年間で最低を記録していた。組合員全体でみると昨年同月より宿泊局が約5割アップと異常に伸びているが、この原因は①前年が悪すぎた為②販売価格を下げた為の二つの説がある。</p>	旅館業 萩市

建設業	公共工事の耐震工事もひと段落。9月と同様で、民間の景気が良くならなければ、先が見えない状況にある。	鉄骨工事業
	中電への工事申請9月277件（当支部分243件）前年同月220件（同182件）。太陽光発電への申請29件、オール電化申請34件（前年は太陽光25件、オール電化30件）。LED街路灯への切替・新設申請は35件。受注状況は順調な様子。	電気工事業
	関係する他の専門工事業業者も廃業などで高齢の熟練技能者が退職し、補充も困難で技能者が不足しつつある為、工事が遅れぎみとなっている。また、元請業者が安価受注の為、社会保険加入等の法を守っている専門請負業者の採算が合わない状況が続いている。	左官工事業
	公共事業の発注は、前年並みとなったが、ほとんど全てが低入札価格での受注となり、収益が望めない。民間工事の発注は件数が少ないが、原発工事が全面的に停止しているため、ダメージは大きい。	土木工事業 柳井市
	先月と状況は変りない。	土木工事業 岩国市
	平成23年10月の受注高は、対前年同月比228%。前年度10月の工事受注高は少なかったが、今年度10月は受注高5千万円以上の工事受注が一度に数件あったためである。今年度の累計は、対前年比71%。来年度は、東日本大震災に官公需予算が振り向けられ、地方の予算が削減されるのではないかと懸念・心配している。	土木工事業 萩市
運輸業	輸送関係は近県への鉄鋼素材輸送がやや活発化しているものの、総じて、輸出・国内輸送とも横ばい。前年対比で収受額はわずかながら上向き傾向にあるものの経費も上がってきており差引ではゼロの不変に近い。円高により企業は海外拠点を重視しているようであるが、既に国外生産が増加している現今では、国内輸送に係る物資の減少が案じられる。油価格は一時的に下がってきたが、月後半より値上げ傾向にあり、輸送業者には一喜一憂の月である。油関係は1.8円の値下げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
	10月は夏日のぶり返し、運輸関係にも天候に左右されると感じられるような燃料の値下がりが急にあった。燃料は、9月分軽油価格：1ℓあたり、SS価格100.2～106.0円、インタンク（タンクローリー配送の運輸会社の備蓄分）価格97.2円で情報では下がり気味傾向の様相。ETC事業も順調で景気が良好な感じがする。保管事業も組合員全	一般貨物自動車運送業 下関市

<p>員一致に団結の努力により、新しい荷主との取引が始まり収入財源が増加した。</p>	
<p>10月の輸送稼働は全体的には昨年並みとなった。しかし、荷主取引先の好不調が鮮明になっており、安定した状態とは言い難い。さらに、続いている円高に加え、タイの大洪水により、世界経済についてはどうなっていくのだろうと案じている。大企業の不調は必ず中小に負担を課すので、この方も案じている。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
<p>対前年同月比でみると、7月～9月と悪く、10月も余り良くない模様。もっとも、昨年の10月～11月が絶好調だったこともあるが。震災復興の影響も今のところ感じられない。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比+9.1%（9月1日～10月20日分）。</p> <p>9月1日～30日分は+12.6%と増加、10月1日～20日分については+18.8%となった。9月の増加分は、ほぼ山口国体会期前開催（周南市クレ一射撃）の選手役員等の移動用に発行したチケット分で、一般需要はほぼ前年同月と同じである。10月の増加は、国体分を除外しても+6.2%と増加しており、前年10月がその前年に比べ大幅（▲8.4%）に落ち込んだ事もあるが、一般の人々の移動も多くなっており、景気回復につながっているように思う。山口大会（障害者大会）用もまだ見込まれ、10月は大幅な増加になる模様。</p> <p>燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、10月分は9月分より少し下がり、前年同月比+10.1%と高値状態にある。山口国体及び山口大会については、一時的な大幅需要増加が予測され、輸送能力の不足を心配したが、関係機関からの事前要請や乗降場の確保、タクシー事業者の配車調整などで何とか無事終了できる。なかなか止まらない円高など長引く不況状態の中、一時的とはいえ、ホテルや交通関連には大幅な需要増加となった。これがきっかけになり、年末の繁忙期まで増加状態が続く事が切望されるが、大会終了後の落ち込みが大いに懸念される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
<p>組合員は本社事務所と事業部事務所を統合する等経費の削減、経営の合理化を図っている。</p>	<p>港湾運送業</p>